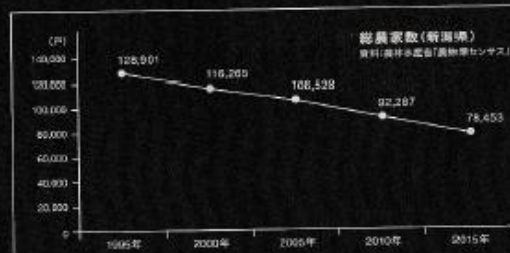


# 食べてくれる人がいるから、 つくる人は頑張れる。

2010年から5年間で、日本の農家は15%も減ってしまいました。それでもまだ、「日本の農産物は高い」「農業の補助金は過保護」など、日本の農家は優遇されていると言われることがあります。たとえば、お米で考えると、ごはん茶碗1杯で約26円。朝昼晩と3杯食べても、ペットボトルの水よりも高くはありません。国家予算に占める農林水産関係予算の割合も、1970年の11.5%から、2018年には2.4%まで低下しています。このまま、日本で農業を続けていくのは、とても厳しい状況です。そんな中、今世界の国々では、農業を守る政策が進んでいます。それは、国民が生きるために不可欠な食料を、安定して確保することが、国の重要な役割だからです。さらに、農業を守る必要性は、食料の安定供給だけではありません。田や畑は、国土や景観、豊かな土壌をつくり出し、洪水や土砂くずれ防止に役立ち、たくさんの生き物の命を育みます。これらは、農業の多面的機能といわれ、私たちの生活を守ってくれているのです。いつまでも、おいしい国産を食べるために。国には、農業の発展と食料の安定供給を掲げる「食料・農業・農村基本法」\*をもとに、よりよい政策で、農業や農村をもっと活性化させてほしい。みなさんには、新潟産の食材を、国産の食材を、もっと食べて応援してほしい。国産を食べると、農家が育っていく。農家が育てば、国産が増えていく。私たちJAグループは、安全・安心な農畜産物を届けつづけるために、これからも地域農業や農村の振興に全力で取り組んでいきます。



\*「食料・農業・農村基本法」は、「食料の安定供給の確保」「多面的機能の発揮」「農家の持続的な発展」「農村の振興」を基本理念とし、食料・農業及び農村に関する施策を策定・実施することも、国・地方自治体の責務として定めています。

